

【切手デザイン／2016「ユネスコ無形文化遺産」登録記念 高岡御車山祭】



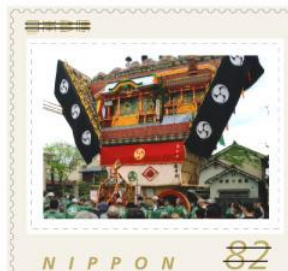
- 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
- 郵便料金決済のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。





- 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
- 郵便料金納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。





- 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
- 郵便料金納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。



2016「ユネスコ無形文化遺産」登録記念

せい はく さい
青 柏 祭
 でか山



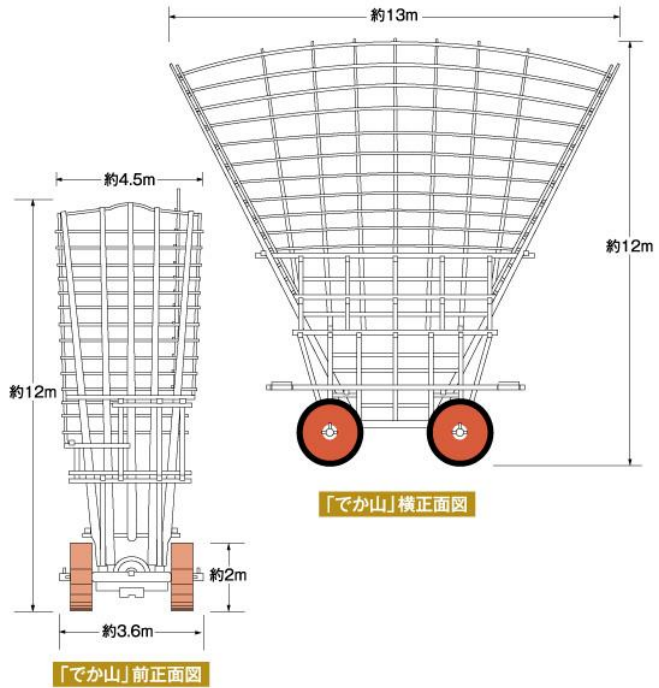
でか山解説

若葉が薫る5月になると七尾では恒例として青柏祭が執行されます。

この青柏祭の曳山行事は大変古い伝統を継承し、昭和58年(1983)には国の重要無形民俗文化財に指定されています。

「でか山」と呼ばれる巨大な山車には、舞台かざりの場面のどこかに一本の若松を立てて、神々の降臨を仰ぎ、業務の発展や諸々の悪疫の退散を祈り、併せて豊かな日々の暮らしも祈念します。

このように来る年毎に神々を迎え入れて祈念する美しい習慣が、何百年か伝えられていることは、七尾の人々の大きな誇りの一つでもあります。この「でか山」には、私達が社会生活を営む上で大切な心の持ち方を教えている古い芝居の名場面を飾って、その年の心掛けの一つとしています。



はじまり

青柏祭は、平安時代の天元4年(981)に時の国主源順が能登の国祭りと定めたのがはじまりと言われる。能登畠山氏3代義統は、京文化の移入に熱心で、都の祇園山鉾にならって文明5年(1473)国祭りの青柏祭に曳山(山車)を奉納したのが、でか山のはじまりと伝えられている。江戸時代の一時期には曳山の高さは18mもあった。

みどころ：辻廻し

狭い街角で、巨大な曳山を方向転換させるシーンは見逃せない。掛け声も勇ましく長さ8mの大梃子に若連中が鈴なりになって曳山の前車輪を浮かせ、地車を入れて辻を曲がる。

魚町



魚町は、小丸山城築城の際、崇敬篤い本宮のといく(能登生国玉比古神社)を明神野へ移転さすことを承諾させられ、その後天正14年(1586)に、魚町以外での魚の売買は一切禁じられた。

府中町



府中町は、天正10年(1582)に前田利家の軍が越中の魚津城を攻めたとき、能登宇出津の棚木城、穴水の甲山城が、上杉軍に攻められたとき、府中町では舟を出して利家軍に協力し、勝利に導いた。

鍛冶町



鍛冶町は、畠山氏治世の時代に城山麓にあった鍛冶師が、前田氏が能登を領してのち、集団移住して鍛冶町がつくられ、鉄材を生産して小丸山城築城と城下町形成に貢献した。